H.C.R.2025 閉幕

12万人超が来場

「第52回国際福祉機器展H.C.R.2025」が10月８日～10日の３日間、東京ビッグサイトで開催された。恒例の介護をテーマにした国際シンポジウムや福祉機器の利活用講座のほか、福祉機器を用いたランウェイショー、学生に向けた現場職員による魅力発信ブースなども展開された。事務局速報値によると３日間の累計来場者数は、昨年より約１千人増の12万1137人。福祉・介護関係者だけでなく、海外の事業者や学生などでにぎわい、今年は特にＡＩを活用した機器の展示も目立った。その会場で本紙編集部員が取材した製品を紹介する。Ｗｅｂ展は11月７日まで開催中。

AI活用製品など多数

アビリティーズ・ケアネット
簡易型移乗リフトささえ手

立ち上がりを軽々サポート

自立移動ができない人の立ち上がりをサポートする電源不要の手動式リフト。上半身と脇の下を支え、軽い力で端座位から半立位に誘導できる。トイレでの移乗介助はもちろんのこと、半立位状態を維持できるため、下半身の着脱衣介助にも最適だ。スリングシート不要で、移動もスムーズなキャスター付き。

0120・834・490

日進医療器
シン・ウルトラシリーズNA-SU7

シート幅調節を工具なしで

工具なしでシートの幅を調整できる車いす。使用者の体形の変化や、着用している衣服の厚みなどに対応することができる。背もたれの位置も簡単な操作で調節可能。強化されたヒップサポートにより安定感のある座り心地も期待でき、使用者・介助者の双方の負担を軽減する。自走用と介護用、それぞれ体格に合わせた２サイズ展開。　0568・21・0635

東京消防庁・ジオクリエイツ
住まいの防火防災診断AIアプリ

火災の危険をＡＩで可視化

ＡＩによる画像認識により、部屋内で撮影した写真から火災の危険がある部分を表示するアプリ。要配慮者などを対象に東京消防庁が行っている「住まいの防火防災診断」の事業を、ジオクリエイツが開発したＡＩアプリでサポートする。消防職員のほか、要配慮者の家族やホームヘルパー、ケアマネジャーなどの利用を想定する。

03・6435・0743

バイオシルバー
ａａｍｓ

転倒リスク者を予測

入所者の心拍、呼吸、体動などのデータを遠隔でモニタリングできるセンサーマット「ａａｍｓ」。その取得データをＡＩで解析し、入所者の中から転倒ハイリスク者を予測できるようにしたのが「ａａｍｓ＋」だ。また、ａｂａ社の排泄検知センサー「ヘルプパッド」のシステムと連携。見守りと排泄の状況を１画面で一覧できる。

045・548・5478

オフィス・ラボ
ピタットチェア アシスト

立ち上がり動作を支援

ガススプリングの力で立ち上がり動作をアシストする椅子。座るときも座面がゆっくりと下がることで、腰や背骨への衝撃をやわらげる。座面スライド機能のほか、回転ロック機能もあり、移乗の際も安心。自立度の高い人から、介助者付きで要介護度が高い人まで幅広く使うことができる。介護保険レンタル対象商品。

089・958・2483

タイカ
αPLAすくっとActive

「動く」を支えリハビリ効果

硬めと柔らかめの両面で作られたリバーシブル構造。安静時は柔らかめの面を、積極的に動きたい時は硬めの面をというように使い分けることができる。特に硬い面は仰臥位から端坐位、端坐位から立位の一連の姿勢変換に伴う重心移動がしやすい特殊な構造となっているため、自ら「動こう」という意欲を引き出す。

0120・152047

MEDISY
メディシー

書類送付作業があっという間

訪問看護ステーションに従事していた経験から、小規模な在宅介護事業所のＩＣＴ化の支援の必要性を痛感して開発したクラウド型書類送付・管理ソフト。帳票ファイルをアップロードしワンクリックでファクスや郵送、電子データなど相手に合わせた方法で送付。送った書類も利用者ごとに自動で整理され、情報管理もしやすくなる。　https://www.medisy.jp/

「O-MU-TSU MUSEUM at H.C.R.」
万博のショーで話題を呼んだおむつを展示

大阪・関西万博で開催され話題を呼んだ、おむつをテーマにしたファッションショー。その出品作品をセレクトして展示する「O-MU-TSU MUSEUM at H.C.R.」が国際福祉機器展の一角に登場した。

主催は、日本福祉医療ファッション協会。「万博では『近未来』『サスティナビリティ』をイメージしたファッションを、おむつメーカーと協力して提案しました」と平林景代表理事。H.C.R.でも内側にパッドがセットされた藍染のパンツや、赤と黒のチェック柄のおむつが展示され、学生や女性の来場客の注目を集めていた。

協力したおむつメーカーは、万博後、デザイン性を重視した新製品を相次いで発売している。例えば、花王は、「まるで下着」という超うす型パンツのシリーズで「ライトグレー」の商品を10月に発売。市販おむつに、よりおしゃれなカラーの選択肢が生まれた。

変わるおむつの世界。平林さんは、「高齢者と赤ちゃん以外の世代が、フェスや渋滞、緊急用などの用途でデザイン性のあるおむつを履くようになれば、今後イメージは変わっていくかもしれない」と話した。

いつもファッショナブルな平林代表